

モモ病害虫発生・越冬状況（休眠期）と発生予測

今後、気温が高く経過した場合、生育が早まる可能性があります。果樹情報等 (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#kazyu>) を参考にして、遅れないように防除対策を実施してください。

(1) モモせん孔細菌病

前年秋期の新梢葉における発生ほ場割合は平年並でした（図1）。モモせん孔細菌病春型枝病斑の発生予測モデルによると、春型枝病斑が2%以上発生するほ場の割合は、平年より少ないと予測されています（図2）。

春型枝病斑は発芽後頃から発生し、気象条件によっては急激に拡大するため、ほ場内をよく観察し、徹底して除去してください。また、開花直前及び落花直後の防除を徹底してください。

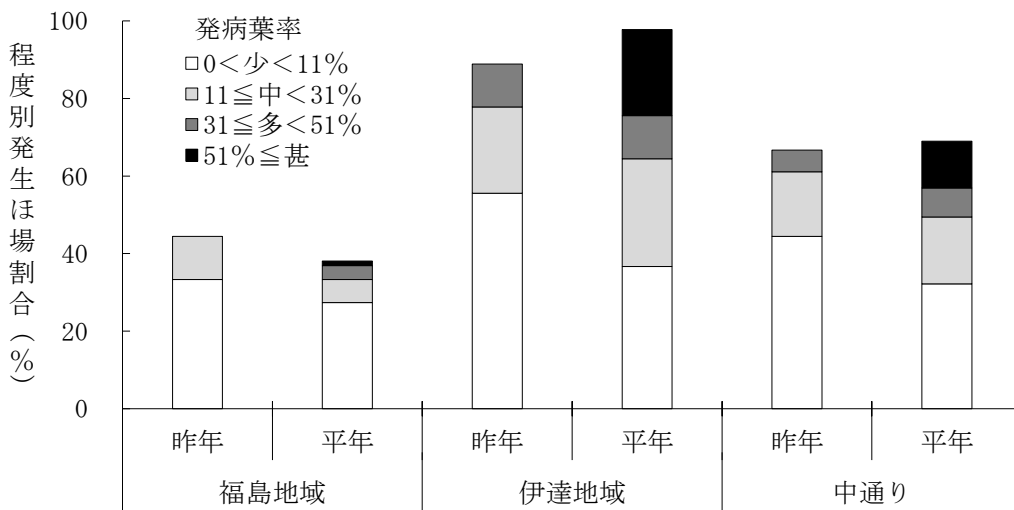


図1 モモせん孔細菌病の新梢葉における発生状況（令和4年9月）

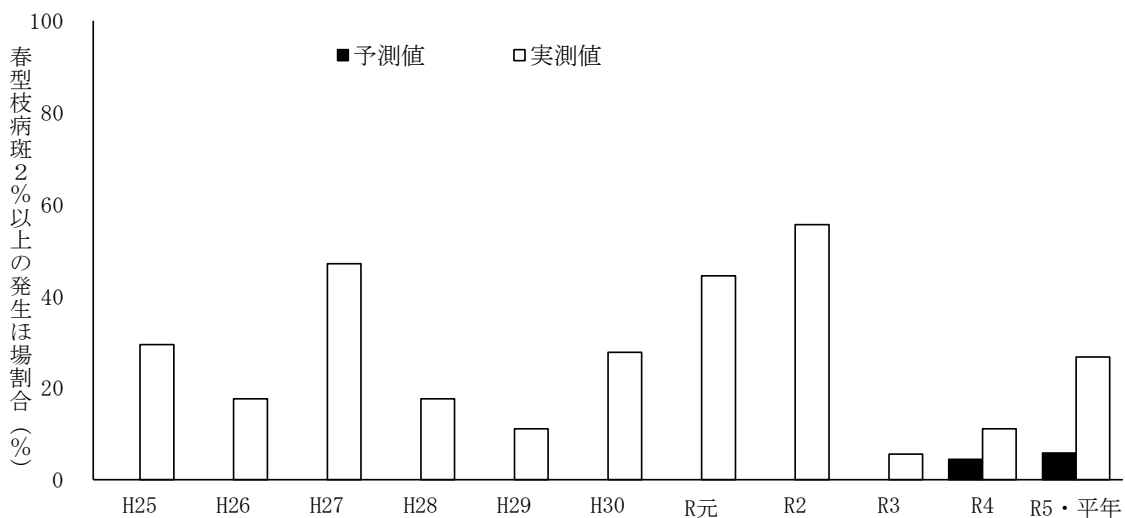


図2 モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生予測と年次比較

(2) モモハモグリガ

県北地方の越冬調査は、農業総合センター果樹研究所、病害虫防除所の両調査において、平年よりも多くの地点で越冬成虫が確認され、越冬成虫数が多い地点もみられました（図3、4）。

平年並に気温が推移した場合、第1世代の防除適期は4月5半旬ごろとなる見込みです。秋期にモモハモグリガによる被害が多かったほ場では、春季の防除を徹底しましょう。

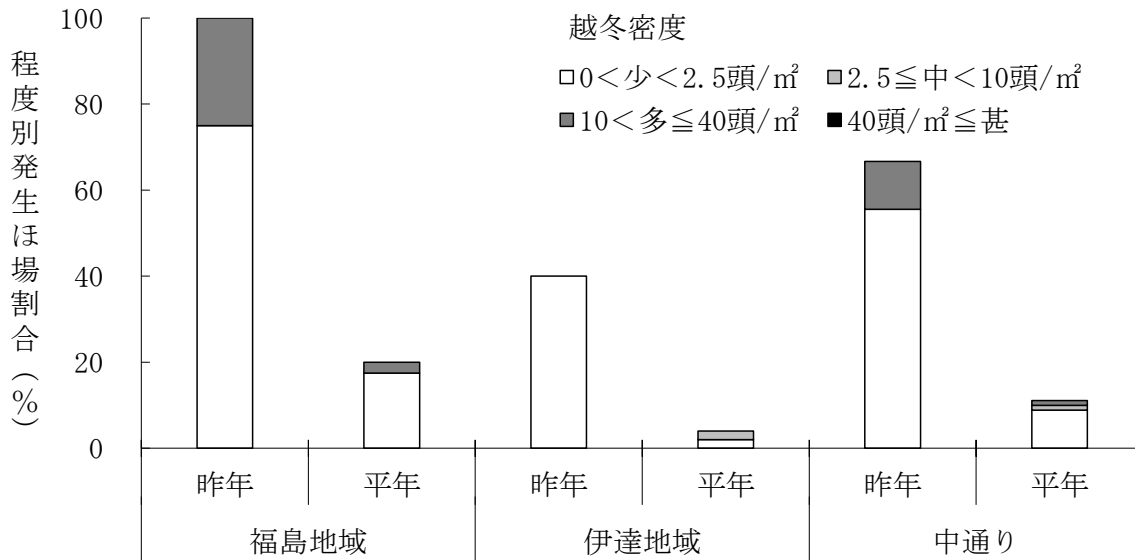


図3 モモハモグリガ越冬成虫の発生状況（病害虫防除所、9地点調査）

※1地点当たり、6m²の木造壁面を調査し、1m²当たりの密度を算出した。

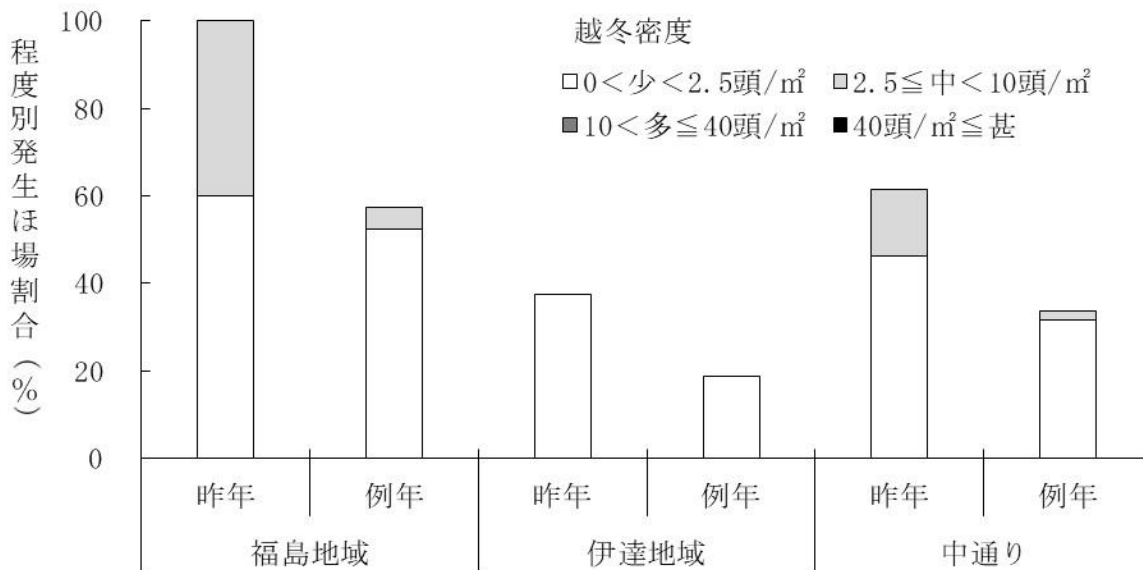


図4 モモハモグリガ越冬成虫の発生状況（農業総合センター果樹研究所、13地点調査）

※調査地点の木造壁面の全面積を調査し、1m²当たりの密度を算出した。

(3) シロカイガラムシ類

前年秋期の側枝寄生の発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図2）。
発芽前にマシン油乳剤を散布しましょう。

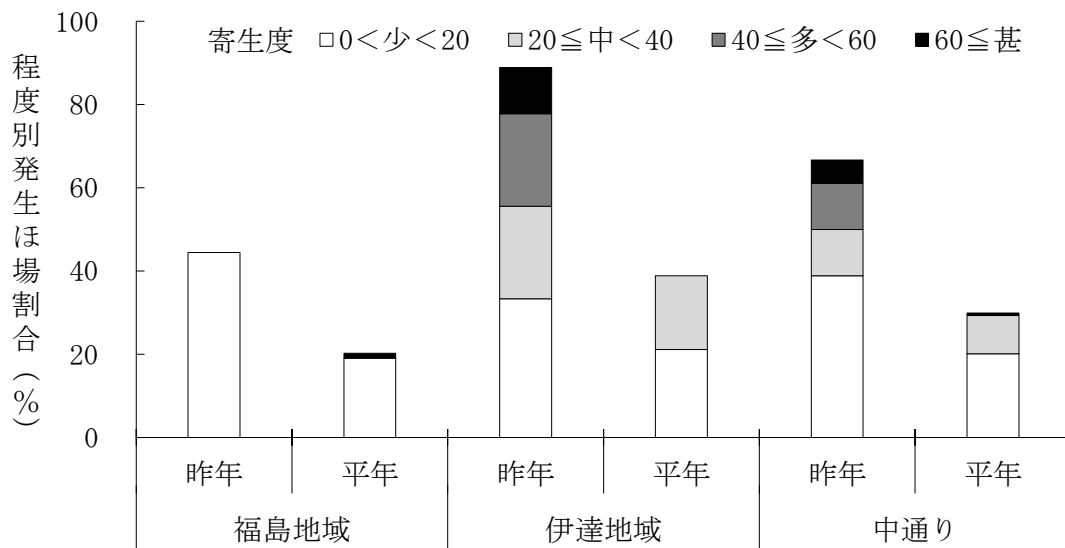


図5 シロカイガラムシ類の側枝における寄生状況（令和4年10月）